



「一芸を披露」
第41回くりやま芸術祭
 「第41回くりやま芸術祭」が10月18日から19日の2日間、カルチャープラザEkiで開催されました。
 町内のサークルや個人による華道・和紙ちぎり絵・俳句・書道をはじめ、絵画・手工芸・木彫・写真・陶芸・盆栽など力作が勢ぞろい。また園児の作品を展示。さらに町内の芸術家による賛助作品など188名・264点が展示され、訪れた309名の町民の皆さんの目を楽しませた。
 また、華道部門に児童センターの子供たちの生け花が展示され、親子連れの見学が見られました。
 文化連盟会員の高齢化の中、体力勝負の会場設営は負担になってきています。そうした中、教育委員会の若手の職員が事前・事後に展示用パネルの設置と撤収を陰ながら尽力いただき大変助かりました。お礼申し上げます。ありがとうございました。

「日本文化に根づく 菊とお茶」
第41回くりやま芸術祭
第59回菊花展
 A茶の湯(代表・伊達桃代)の協賛をいただき、「菊と茶」の織り成す麗しき融合体を醸し出してくれたことも感謝に堪えません。
 何と言っても一番の思い出は、かの日、空知信金産業文化振興基金より「地域振興貢献賞」を頂いたことです。会員一同、感謝と歓喜に酔ったことは言うまでもありません。
 思い出は尽きませんが、これまで長きにわたり菊を愛で、お世話になりました町民並びに「栗山文化連盟」皆様の今後の発展とご健勝を多幸をこぞ祈念申し上げます。
 終わりに、毎回数多くの菊花の搬出入に多大なご支援を頂きました町教育委員会職員の皆様に改めて感謝申し上げます。(文責 磯野)

茶の湯が興った当時と現在の生活様式との間には大きな隔たりがあり、いかに茶の湯が素晴らしいものであっても、当時の生活スタイルにもとづく形式では多くの人々が親しむことはできません。すべてのものがそうであるように、茶の湯においても現代に即したあり方が求められてきました。
 利休以来四百年、今も茶の湯が生き続けているのは、古くから伝えられた伝統を重んじながらも、常に前向きに新しいものを吸収して新時代に即した様式を生み出してきたからに他なりません。
 盆点前のはじまりは、明治初年、西洋の文化、生活様式が伝えられ、世を挙げて文明開化を謳歌していた頃にさかのぼります。当時の茶人は、新時代に合うようにテーブル点前、立礼点前、盆点前を工夫したのでした。以来、誰でも手軽に暮らしの中で茶の湯を楽しみつつ、日本の文化、芸術に親しめる

「人花心、今「心の教育」を考える」より出前講座をしています。気軽に、一緒にお茶を楽しみませんか。
 異常気象では来年以降の苗づくりは難しい。」等々。
 次々と今後の菊づくりに対する意欲や雰囲気を見せてきたのが現実です。それにも増して、いつの間にか会員の平均年齢も卒寿に達してしまい、何といても、菊文化の後継者を見出すことができなくなりました。
 かくして、昨年11月8日の総会(5名)において、昭和42年発足の歴史ある当会も60周年を目前に断腸の思いで「栗山文化連盟」の退会を決断せざるを得ませんでした。
 関係者各位の皆様、何卒ご理解とご了承をお願い申し上げます。
 一時は、会員数20名に達する大所帯で賑わった菊の会でしたが、時代の流れには抗せずこのような結末になりましたことを重ねてお詫び申し上げます。
 この間、会場において盛大なる「表彰式」なるものも挙行了した時期もありました。その節は、優勝盾のご寄贈等で歴代の町長様始め、議長、教育長、商工会議所、道新販売所、タネシヨウの各位に大変お世話になりましたこと、改めて心より感謝申し上げます。
 また、平成20年より毎年、MO

「艶やかに舞い 伸びやかに唄う」
第58回栗山町芸能祭
第34回カラオケ発表会
 第58回栗山町芸能祭・第34回カラオケ発表会が令和7年11月3日に開催されました。
 午前の部では一人ひとりの個性を活かしチームワークで琴花みずき・栗山詩吟愛好会・栗山詩吟会・西川流祿扇会・大正琴サークル・フラスイートピー・翼声会など7サークルが日頃の練習の成果を披露、残念ながら深山流北萩会は都合上出席できませんでした。
 午後も7サークル35名栗山カラオケ同好会・カラオケ五葉会・北日本歌謡同志会・栗山つくしクラブ・歌謡くらぶ栗の木会・継立カ

よう創意工夫が重ねられてきました。茶の湯の世界というのは、作法が難しいとか道具があるとか、習得に時間がかかるということの一部の限られた世界として受け止められがちでした。しかし、この素晴らしい美の世界をより多くの人に親しんでもらうためには、もっと気軽な形での普及が望ましいということ、盆点前は考案されました。
 道具も丸いお盆があつて、そのお盆の上に茶碗、なつめ、茶筌、茶杓、ふくさ、など必要最小限の道具を乗せて行います。
 特別な世界の茶の湯ではなく、日常的に行える茶の湯として「盆点前」を行い、素晴らしい茶の湯の世界に触れ続けていくことにより何よりも心もあしあし、情操が養われ、人間として一番大切な相手を思いやる心が育まれていきます。実際に、茶の湯の作法は、日本人のエチケットに深く浸透して、日本固有の礼儀作法というものを形成し、日本文化に多大な影響を与えてきました。
 (人花心、今「心の教育」を考える)より出前講座をしています。気軽に、一緒にお茶を楽しみませんか。

第57回空知管内郷土芸術祭
 第57回空知管内郷土芸術祭の舞台部門発表が9月7日(日)に三笠市民会館で開催されました。栗山町文化連盟からは深山流北萩会の風間秀子さんが出演され、「鼓」を力強く艶やかに披露し、空知管内から集まった満席の観客から暖かい拍手を受けていました。
 その他、空知管内からは栗山町以外にも多くの団体が参加し、舞台芸能やバンド演奏、一筆曲など日ごろの成果を発揮し、会場の観客からは多くの拍手を送られました。



ラオケ愛好会・円山カラオケ同好会が自分の歌声を大勢のお客様を前に日頃の練習成果を披露し温かい拍手を頂戴しありがとうございました。
第59回くりやま菊花展
 昨年11月2日(3)日の2日間に亘る伝統の「59回菊花展」が町民皆様のご支援、ご協力により、華々しく開催されました。
 ここに改めて心より厚くお礼申し上げます。
 さて、数日後にベテランの一会員から「ここ数年の酷暑のせいで、菊がまともに咲かなくなりました。」また、他の一人は「大輪用の8〜9号鉢の持ち運びが堪えるようになった。」「ハウスの中の温度が常時50度以上の中での作業が大変だった。」そしてある会員は「この

この間、会場において盛大なる「表彰式」なるものも挙行了した時期もありました。その節は、優勝盾のご寄贈等で歴代の町長様始め、議長、教育長、商工会議所、道新販売所、タネシヨウの各位に大変お世話になりましたこと、改めて心より感謝申し上げます。
 また、平成20年より毎年、MO

異常気象では来年以降の苗づくりは難しい。」等々。
 次々と今後の菊づくりに対する意欲や雰囲気が失せてきたのが現実です。それにも増して、いつの間にか会員の平均年齢も卒寿に達してしまい、何といても、菊文化の後継者を見出すことができなくなりました。
 かくして、昨年11月8日の総会(5名)において、昭和42年発足の歴史ある当会も60周年を目前に断腸の思いで「栗山文化連盟」の退会を決断せざるを得ませんでした。
 関係者各位の皆様、何卒ご理解とご了承をお願い申し上げます。
 一時は、会員数20名に達する大所帯で賑わった菊の会でしたが、時代の流れには抗せずこのような結末になりましたことを重ねてお詫び申し上げます。
 この間、会場において盛大なる「表彰式」なるものも挙行了した時期もありました。その節は、優勝盾のご寄贈等で歴代の町長様始め、議長、教育長、商工会議所、道新販売所、タネシヨウの各位に大変お世話になりましたこと、改めて心より感謝申し上げます。
 また、平成20年より毎年、MO